

平成 29 年度 第 3 回 6 月鷹栖町議会定例議会

平成 29 年 6 月 19 日

一般質問（認知症対策について）

質問方法 一問一答方式

青野 敏

（一部の言葉使い、語尾等を校正して記載しています）

認知症対策についてお伺いをいたします。

認知症は誰でもかかり得る病気であり、高齢化の進展に伴い、さらに患者数が増加すると推定をされております。現代医学においても、認知症を完全に回避をする、絶対的な予防方法はないようですが、最近の研究から適切な予防策を講じることにより、認知症にかかりにくくする対応策はさまざま報告をされております。

また、認知症が発症してもきちんと治療すれば治る認知症もあるようですし、早期の治療を行うことで症状の進行を遅らせる治療法も報告をされております。

本町においても、平成 28 年度末現在、介護認定を受けた方の中での認知症と判定を受けた方が推定で約 230 名いると伺っております。

認知症対策には、予防対策、早期発見、早期治療が 1 番効果的で有効な対応策のようですし、さらに認知症の方々をいかに地域で見守り、ケアをする対策は、今後の課題であります。更に国においても、平成 27 年「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者にやさしい地域づくりに向けて」（新オレンジプラン）が策定をされております。

本町の認知症対策について、1 点目として、予防についてお伺いをいたします。

認知症予防には食習慣、運動習慣、人との関わり、知的行動習慣、睡眠習慣等々、認知症になりにくい生活習慣を心がける方策と、認知症で落ちる能力をトレーニングで鍛える方策等が有効であると報告がありますけれども、本町の認知症予防対策について伺います。

谷町長

それでは、認知症予防対策について、青野議員の御質問にお答えをいたします。

認知症の発症や進行をおくらせることができれば、自立した生活を送ることが可能となり、ここに認知症予防の目的があると考えております。

近年、認知症発症の原因の一つに高血圧、糖尿病、動脈硬化といった生活習慣病が関係していることが分かってきました。また、普段から自分の体を知ることが非常に重要であり、毎年の特健康診査などを受診することや特定保健指導などを活用し規則正しい生活に改善することが大事です。

予防から改善までという観点では、「サンホールはぴねす」等で実施している認知症予防教室を初め運動機能の低下を防ぐ介護予防教室や老人会などの行事において、生活

総合機能改善機器プログラム(エルダーシステム)を取入れた脳トレーニングにも取り組んでいます。

更には、今年度より北野地区に開設されましたフィットネス倶楽部コレカラにおいて認知低下を遅らせることを目的とした運動と同時に脳の活動を活発化する体操(コグニサイズ)を取入れた認知症予防対策も実施しております。

青野 敏

本町の認知症予防についてお話がございましたが、平成 26 年から取り組んでいる認知症予防教室の中で、運動、調理、手芸、合唱等々の取り組みも行っているとの報告を受けております。

また、エルダーシステムではカラオケの機器を使った運動として、27 年度述べ 740 名の参加者が予防教室を受講している事も聞いておりますし、28 年度においては 52 回の開催で 870 名程度の方がこのエルダーシステムを受けながら予防活動を行っている事も伺っております。

しかしながら、先ほど町長が話されたように総体的に鷹栖町の人口約 7,050 名の内 65 歳以上が約 33%で 2,300 名ほどいらっしゃいますが、認知症の予防というのは 65 歳に限ったことではなく若年性ということもありますので、この予防対策をより多くの方に受けていただいて認知症にならない為の行動は大事であります。

併せて、特定健診の受診率も恐らく本町では 40%少々と聴いておりますが、総体の数からいえばかなり少ない人数しか受けていない現状であります。

より多くの方にエルダーシステム等はじめ、様々な予防活動を行っていただくことが 1 番大事ではないかと考えますがどうでしょうか。

谷町長

2,300 名というのは入所されている方も含めての全体になりますので、その方々全てというのは不可能かというふうに思いますが、青野議員がおっしゃるとおり介護予防に対する取り組みは幅広い運動でもございますので、行政だけではなく地域の老人会の活動での取り組みが非常に大事になってくると思います。

行政でも、高血圧や糖尿病、動脈硬化等の生活習慣病も起因しているという事も分かってきましたので、それらも含めての保健指導を実施していきたいと思っておりますし、大事なやはり広報活動も非常に大事だというふうに思っています。

議員協議会のおきにお話をしましたが、今年がんの関係でピロリ菌検査を初めて行くと、500 名以上の方が受診の希望をされているというお話もありました。

認知症というのも誰もが起こりうる病気ですので、そういう部分を町民の方に広く知ってもらい、如何に健康寿命を延ばすかというような取り組みを続けていきたいと考えております。

青野 敏

認識は一緒だと思いますが、認知症にならないための予防活動をする必要性がある訳ですから、町民全員が認識を持ち活動する事が望まれます。

認知症になる要素は全員が持って居る事は間違いありませんから、そのことを踏まえて行政としても今後の計画や活動に取り組んでいく必要があります。

また、町長から北野に開設したフィットネス倶楽部コレカラの話もありましたが、専属のインストラクターや栄養士の指導、保健指導等の関係もあるでしょうしから配置職員の数についても大丈夫でしょうか。

谷町長

これも先ほどの職員数ともかかわる訳ですけども、全てが町の職員が行わなくてはならないということではないと思っています。介護予防教室についても旭川市内の優れた指導者に来ていただいて指導を行ってございます。

これから学んでというよりは民間の力も借り、今後如何に介護予防の教室等もいろいろな場面で広げていけるかということも大事だと思っています。

職員数については、今のままの職員数で現在のところは行っていきたいというふうに考えてございます。

青野敏

これは後ほどの質問にも絡んでくるかと思いますが、予防活動についてはそれぞれの団体でもできるでしょうし、また予防教室ということで開催をすれば自分の体に心配がある方は率先して参加するでしょうけれども、それ以外の方々はなかなか参加しないのが現実ではないでしょうか。

それ以外の方々はサークル活動ですとか、団体活動ですとかに参加している時に、予防の訓練ですとか予防対策を取入れる事も効果的な活動ではないかなと思います。

行政と民間で行っているいろんな活動等々と一緒にタイアップをしてやっていけばいいかと思いますが、団体の方々と連携をとって進めるようなシステムを構築することはどうでしょうか。

町長

今ですね、青野議員のおっしゃったとおりそれぞれの様々な団体と連携をとりながら行うというのは非常に重要だと思っています。

現在、最初の答弁にもお話しましたが、老人会の方に出向いてエルダーシステムでの運動教室等を行ってございますし、フィットネス倶楽部コレカラについてはやはり車の便が悪い地域の中央、北斗、北成の方たちの参加者が少ないということで町営バスを一部無料化にして、はびねすから無料福祉バスで送迎を行い、これから老人会の方々にもお話をし、団体で教室を行うような働きかけも行っていこうということで現在計画をしております。

また支え協議体といいまして、さまざまな団体ですとか地域の方々に来ていただいて、その健康づくり生活支援の部分も含めて地域の課題は今どういうものがあるのか、そのために解決していくのは、行政でやること、地域でやること、家族でやること、どういふことがあるかということで、第一層コーディネーターを社会福祉協議会の職員と第二層コーディネーターをさつき会の施設長の佐藤さんをお願いをして今そういうような取り組みもしてございます。

いろいろな観点からこちらからアプローチできるような体制作りを、北野において大変良い施設ができましたので、より効果的に推進できるような取り組みを今年度から取り入れているところでございます。

青野 敏

今町長がおっしゃっていただいたように、是非とも行政で出来る事、地域で出来ること、家族で出来る事について議論する場を設定して頂きたいと思います。

また、色々なデータであったり様々なシステム等の共通的な課題があれば、その団体と一緒に協議をしたりすることも含め、町長が今おっしゃっていただきましたように取り組んで頂くようお願い致します。

2点目の質問として、軽度認知障害（MC I）検査についてお伺い致します。

認知症対策には早期診断、早期対応が一番重要であると言われております。また、早期診断によって適切な治療を受けることで認知症の発症を防ぐことも可能であるとのことから、軽度認知障害MC Iの段階で発見することが認知症予防には非常に重要であるとされております。このMC Iの検査への取り組みについて、町長の考えをお伺いさせていただきます。

町長

軽度認知障害についてお答えをいたします。

この軽度認知障害MC I検査、オレンジテストと言われてはいますけども、鷹栖町では平成27年度から地域包括センターにおいて通年で実施をしてございます。

受験者の認知機能の把握に努め必要に応じてその方の状況に合わせた介護予防教室への働きかけを行い、継続的にかかわりを持つことで状況を把握しているところでです。

1検査あたり15分ほどでできる気軽さがあるということで、春のチャレンジデーの企画としても取り入れるなど、気軽にテストを受けられる体制づくりに努めているところでございます。

青野敏

気軽に取り組めるという話がありますけども、なかなかこの認知障害及び認知症にか

かっているかの検査を受けるという事へ踏み込む勇気が無ければ検査を受けない方が多いのでは無いでしょうか。

各団体のサークルや部落会合や老人単位で遊び感覚の中で用紙を持って行き認知症の検査を上手に受けられるような方法がないかなと考えていますがどうでしょうか。

町長

現在、鷹栖町で行っている検査は一人一人に対して保健士との問答によるお話をしながらタブレットを使って行っているものでございますので、団体で一緒に行うような検査は行っておりません。

一人一人の方が正確につかめますし、認知症に罹るのは将来にわたって何時になるかわからない訳ですから、前年度の数値と比較して変わってきているところを、第三者的観点から見ていただくということが非常に大事であります。

自分で理解できれば病院に行ける訳ですから、そういうような第三者的観点、そして専門職の観点から見ていただくということが大事だと思いますので、恥ずかしいだとかそういうことは言わないで不安感を払しょくするように心がけてはどうでしょうか。

去年は受講が大変少なかったものですから、今年は春のチャレンジデーでも取り組もうということでより多くの方に声掛けを行い、去年よりも受けたテストの人数が増えております。

今後も、各団体ですとか秋のチャレンジデーもございますので、そういう事業に合わせて積極的にPRして、認知症の方が受けるテストではなく健康の方が受けて健康チェックをするように変な誤解のないように、オレンジテストの方をこれからも継続して、できる限り多くの方に受けてもらえるような環境づくりにも努めていきたいというふうに考えてございます。

青野 敏

オレンジテストの受講人数は、27年度57名、28年度35名と報告を受けております。

先程からの数から言えば一部の町民しか受けてないのが現状であり、受けてもらうための環境を整備する事が大変重要であります。

担当課の知恵と英知を結集して受講環境の整備をお願い致します。再度この件についてお考えを伺います。

町長

先ほども答弁をしましたが、実を言うとチャレンジデーだけで今年度45名の方に受験をしてもらいましたので去年の数字をもう早くも上回っている所です。

その方々が簡単に検査を受けられる事を周囲の人達との横のつながりで伝えることは非常に大事ですから、そういうようなことも含めてできる限り受けやすい環境づくりに努めてまいりたいと思います。

青野 敏

3 点目として認知症のサポーターについてお伺い致します。

認知症に対する正しい知識と理解を持ち、認知症の人や家族に対して出来る範囲の手助けなどにより、安心して住みなれた地域で暮らしていけるように温かく見守り、支援をする活動は非常に重要であります。

今後、年齢を問わず日々の生活の中での応援者で、認知症の方や家族を支援する役割として認知症サポーターの活動にはとても期待を寄せられますけども、認知症サポーターについての取り組みのお考えをお伺い致します。

町長

認知症サポーターについてお答えをさせていただきます。

高齢化の進行とともに、認知症は誰もがかかわる可能性のある身近な病気です。

そのためにもあらゆる世代における、共生型の地域見守りネットワークの構築が必要であり、認知症の方を地域住民も支える仕組みづくりが重要であると考えております。

その支援策の一つとして、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、できる範囲で手助けをする認知症サポーターを養成することを全国的に進めておりますが、本町においても平成 26 年度から養成講座を実施しており、現在まで3年間で約 350 人の方が受講をされてサポーターになっております。

今後、認知症サポーターの方を対象にした講座なども計画して、誰もが住みなれた地域で自分らしく暮らし続ける地域づくりをこれからも継続して行っていきたいというふうに考えてございます。

青野 敏

認知症サポーターですけども、先ほど話したように認知症に対する正しい知識を持ちながらしっかりと自分で行えるサポートをする、そういうことが一番求められることだというふうに思いますし見守だと思えます。

これは家庭や地域、施設にあってもそうだと思いますが、認知症の方々へのサポーターは非常に重要だと思っています。

将来的には町民 10 人に 1 人、出来れば全町民の方に受けてもらうような活動がとても大切だと思います。また、1 回認知症サポーターを受講しても刻々と様々な面での認知症に対する環境の変化がある訳ですから、是非 2 回 3 回受講していただき新たな知識を習得してもらいサポート活動を続けて頂く事が大事だと考えています。

改めて認知症サポーターの目標人数の考えがあれば伺います。

町長

介護保険の計画では毎年 70 名ということで目標を設定しておりましたけども、先ほ

どお話ししたとおり 3 年間で 350 人ということですから目標以上の方が本当に関心を持たれて、教室に参加されている現状です。

それと特出すべき事項が、子どもたちからもその御家族等も含めて小さいときから認知症の特性事や病気をよく知る事が非常に大事なことだということで、小学生を対象にしても毎年行っている状況でございます。

3 年間で 350 人ですから、1 年平均 120 人弱の方が受講されてサポーターになっているので先ほど議員がおっしゃったとおり、認知症の知識ですとかが刻々と進歩してきているものがありますので、サポーターの方に 2 回目 3 回目と講習会がある社会福祉協議会での地域力アップ講座などで、認知症にかかわらず色々な情報を共有しながら、地域でも見守って支援していける体制づくりというものを継続して行っていきたいというふうに考えてございます。

青野 敏

それともう一点、認知症のサポーター養成するため講座の講師（キャラバンメイト）、この方は今鷹栖町に何人いらっしゃいますか。

新田健康福祉課長

行政職員 1 名、さつき会で 1 名おりまして講師は 2 名でございます。

青野 敏

出来れば行政の担当職員の方々が率先をして認知症サポーターの養成講師を受け、多くの職員が様々な会議の中でこのサポーターに関する説明ができるようなことも大事だと思いますが考えはどうでしょうか。

谷町長

そういうような考え方もございますし職員数が限られている中で、保健師等が指導するというのも十分可能だと思いますので、そういう部分も含めて指導者の数は増やしていきたいというふうにも考えてございます。

できるだけ効果的に受講していただいて、費用対効果って言ったら本当に失礼な言い方になるんですけども、なるべく多くの方にサポーターになっていただけるような環境の中でこの事業を進めていきたいというふうに考えてございますので、御理解をお願いしたいと思います。

青野 敏

先程の町長答弁にもありましたが、いろんな関係で鷹栖町職員の数に対して様々な事業関係も増えている中で大変な面はあるかと思いますが、谷町長はメリハリをつけて応援するところは予算を付けて事業に取り組むべきかと考えていると思います。

子育て・福祉・教育・健康の対策などで、職員の数や費用対効果の事もあるとは思いますが、鷹栖町として何を指すのか決断して行かなければなりません。

それとサポーターの関係では町長が話されたように、子ども達に対して教育の中で認知症に関する正しい知識を持っていただいて、自分達の生活の中で身近に受け止めて手助け等を教えて頂きたいと思います。

認知症の方を日常生活で見守りをするという中ではサポーターも大事でしょうけども、今それぞれの機器を使い徘徊などを監視する新しいシステムが開発されています。

アルソックで今年から行っている認知症の方が玄関を出たら警報が鳴るシステムですとか、認知症の予防にスマホのアプリを使用して実証実験をするという報道も出ていますが、認知症の見守りシステムの今後に向けた取組は。

谷町長

せっかく傍聴者の方もいらっしゃいますから、PRをしたいというふうに思います。アルソックさんと契約を結ばせていただいて、認知症の方が小さな見守りタグ持って移動をすると、万が一行方不明になった場合には、一般の方がスマートフォンのアプリを入れておけば 300m以内にその方がいらっしゃれば発信されるシステムを鷹栖町でも導入することになりました。

先ほど施設介護という話もありましたけど、施設に入所されている方で認知症の徘徊癖がある方にタグを付けて、玄関に本機器を付けておくところを通った時間が分かるということですから、いつ外に出たかが分かるようになります。

また、町内の基点となるような場所にその機械を付けておけばその前に何時に通ったかというのが分かりますので、今まで認知症の方が行方不明になった場合に何時にいなかったのか分からないで予測もつかない中で捜索をしていたのですが、ある程度は絞った形の中で捜索もできます。

また、室内にいた場合はなかなか今まで見つけづらかったのですが、今度はアプリ導入してスマートフォンでその町内会を歩いていけば見つかりやすくなる機械を導入致しました。

正式に導入したのは全国で初めてということで、今月号のメディア旭川の月刊誌の方にも紹介されてございますけども、できる限り認知症の方の家族が安心して在宅で生活できる、もしくは施設入所できる、そういうような環境づくりというのも大切だと思ってございますので、更に研究しながら事業を行っていきたいというふうに考えてございます。

青野 敏

予防活動からサポーター事業、検査システムから見守に関してまで話をされましたけども、認知症については誰もが罹る病気であり自分の身も介しながら地域にもあり得ることだと思います。

行政としては様々な政策的なことも大事でしょうけども、健康と福祉という鷹栖町のキャッチフレーズですから、是非とも認知症を鷹栖町からは 100%なくすぐらいな気構えで予防対策も含めながら見守り活動もしっかりと行って頂きたいと思いますけども、最後にこの決意をお願いします。

谷町長

青野議員から力強いお言葉をいただきましたけども、やはりですねうちの町は子どもからお年を召した方までが、自宅で本当に心豊かに健康で安心して生活できる、そういうようなまちづくりを進めていくのがまちづくりに大切だと思っております。

新たな大きな花火を上げるのは、実を言うと継続性という部分では非常に難しいところもありますけども、やはりこつこつと住民の方と安心して生活できる人と人との絆が大事だというか、そのような地域づくり町づくりというのは後からになって本当に住んでよかった、他の地域から見ても評価されるそういうようなまちづくりにつながっていくと思いますので、堅実にそれを積み上げていきたいというふうに考えてございますので、御理解をお願いいたします。